

尿検査 新システム導入に伴う変更点

2012.1.4

尿検査室(4587)

【尿沈査検査の項目表示順変更】

尿沈査検査は、まず自動測定機器測定(フローサイトメリー法)にて、定量値(/ μ L)を測定し、それを鏡検目視した場合の視野当たり個数表示(/HPFまたは/LPF)に換算した値も併記して報告しております。
従来、KINGにおいて項目の結果表示順は、項目ごとの機械定量値(/ μ L)、目視換算値(/HPFまたは/LPF)、という順で報告しておりましたが、視認性をよくするため、目視換算値をまとめて表示(/HPFまたは/LPF)、機械定量値(/ μ L)をまとめて表示、という形式に変更させて頂きました。
また、沈査コメントに「目視中」と表示されている場合は、技師による鏡検中ですので、結果が変更される場合があります。

従来	(単位)	新規	(単位)	
*RBC	/ μ L	沈査コメント1	目視中	目 視 換 算 値
*RBC(HPF)	HPF	*RBC(HPF)	HPF	
*WBC	/ μ L	*WBC(HPF)	HPF	
*WBC(HPF)	HPF	*EC(HPF)	HPF	
*EC	/ μ L	*CAST(LPF)	LPF	
*EC(HPF)	HPF	*BACT(HPF)	HPF	
*CAST	/ μ L	*RBC	/ μ L	
*CAST(LPF)	LPF	*WBC	/ μ L	
*BACT	/ μ L	*EC	/ μ L	
*BACT(HPF)	HPF	*CAST	/ μ L	
沈査コメント1	目視中	*BACT	/ μ L	機 械 定 量 値

【尿沈渣の円柱類の報告値変更】

2011年3月、日本臨床検査標準協議会(JCCLS)尿沈渣検査法GP-1P4「尿沈渣検査法」が改訂されました。
それに伴い、尿沈渣の円柱類の報告値を変更致しました。
低値域について詳細報告することとなり、旧報告値の「1~/100LPF(弱拡大100視野に1個以上)」を3段階に分けて詳しく報告します。

従来	新規
—	—
1~/100 LPF	弱拡大10視野に1個以下
1~/1 LPF	弱拡大10視野に1個~2個
10~/1 LPF	弱拡大10視野に3個~9個
100~/1 LPF	弱拡大各視野に1個~9個
	弱拡大各視野に10個以上

【尿沈査項目名称の変更】

日本臨床検査標準協議会(JCCLS)尿沈渣検査法GP-1P4「尿沈渣検査法2010」に準拠し、従来の「移行上皮細胞」を「尿路上皮細胞」に名称変更します。

従来	新規
移行上皮細胞	尿路上皮細胞

【新規項目】

尿生化学計算項目として FENa(Na排泄率)を報告します。
(血清Na、血清CRE、随時尿Na、随時尿CREによる計算項目)
これら4項目に値が入った時点で自動的にオーダーが発生し計算されるので、オーダー不要です。

$$FENa = [(尿Na / 血清Na) / (尿Cre / 血清Cre)] \times 100(\%)$$

【24時間クレアチニンクリアランスの結果表記について】

この度、24hCCRの結果に、「体表面積補正なし」というコメントはつけておりませんが、以前と変更はなく、体表面積補正は行なっておりません。

【尿定性検査結果値の表記の変更】

尿定性検査の結果値において、従来+1,+2,+3…と表記していた結果について、この度1+,2+,3+…という表記に変更しております。